

## 第二講 「帝国」と帝国の形成

### 1. 「帝国」という用語の使用

近代（大英帝国）とのアナロジーで帝国という用語を用いる

arché：支配・支配権・版図

hēgemoniā：統帥権・覇権・支配

他の共同体（都市）を支配するという意味で

アテナイ帝国・スパルタ帝国と呼ばれる。

領土内従属共同体支配と区別が困難（例：スパルタのペリオイコイ共同体支配）

「帝国」という用語の妥当性についての疑問：

ポリスの規模：ギリシア本土に 710 のポリス（ギリシア世界全体で 1000）

平均 67ha（都市域）、5600 名（人口）。

対象となるポリスの殆どが現代のギリシア共和国という国民国家の中に含まれてしまう→「帝国」という言葉を使うことの妥当性への疑問

財政能力の欠如：安定した・十分な財源を持たない

恒常的財政欠陥→外部からの資金導入に頼る

長期にわたる軍事行動は困難

官僚機構の欠如：在外公館の欠如

常備軍の欠如：基本的には市民軍と傭兵

補給機構の欠如：遠征軍に随伴する商人或いは遠征地の市場に依存

ギリシア国際法の制約：占領地は平和条約締結後返還の義務

他国に土地を所有することの禁止

他国領を植民地化することの欠如

領域的帝国形成の困難

### 2. 古代ギリシア史における「帝国」の実態：

外交的影響力を利用することで帝国を運用

説得 (peithó) と強制 (anágkē)

説得：使節の派遣・交渉

名誉領事 (próxenos)

党派対立を利用 (民主派は親アテナイ的、寡頭派は親スパルタ的)

階層対立を利用 (貧民層は親アテナイ的、富裕者は親スパルタ的)

親アテナイ派 (Attikizóntes)・親スパルタ派 (lakōnistés) を利用

強制：司法への干渉

親アテナイ派政権・親スパルタ派政権の樹立

民主政・寡頭政の樹立

駐留部隊の導入

在外官吏による監視

艦隊や軍の派遣

賓客関係 (xenía)・友情関係 (philía) を利用

有力者間の関係・貴族制時代の慣行

### 3. 帝国の台頭

ペロポネソス戦争以前

海洋戦略の欠如

前550年頃：イオニア人の要請拒否

前499年：アリストゴラスの要請拒否

前479年：イオニア人の本土移住を提案

前478年：パウサニ阿斯事件を受けて海洋から手を引く

陸上における決戦主義

弱体な艦隊とコリントスなどの同盟諸国への依存

貧弱な財政力：軍艦1隻の維持費 (月0.5T・半年3T)

搭乗員：市民以外から充当・1隻につき200名

ペリオイコイ・外国人から充当

スパルタの体制に対する潜在的脅威

圧倒的に強大な陸上戦力

経済的な外交戦略：エーゲ海以東へは関与せず

海洋国家との非対称共存

海洋国による海上支配の容認

国内における対立

王家間の対立

ペリオイコイ（カリュアイなど）との緊張

ヘイロタイとの緊張

同盟国との対立

テゲア・エーリス

アテナイとの共存